

# 鋼製支柱について (L2地震時の設計)

大阪府

# 鋼製支柱について（L2地震時の設計）

## 課題・検討内容

延伸区間では、鋼製支柱が多数あり、また、類似形状も多くなると想定されることから、構造寸法等でグルーピングすることにより、地震時動的照査法を省略化できないか、検討を行う。

## 検討結果

### ○構造寸法等でのグルーピング

- ・ 鋼製支柱は、延伸区間で全36基となる。
- ・ 鋼製支柱は、支障物件（高速道路高架橋、大型地下埋設物等）と交差する箇所に計画。
- ・ 形状は、各々の計画箇所において特殊形状となる。

### ○照査方法による省略化検討

- ・ 動的解析照査法を省略化するには『鋼製橋脚の限界ひずみ $\epsilon_a$ 』の算出が必要となる。  
これには 断面諸元（部材詳細寸法等）の算定が必要となる

**鋼製支柱は、交差物件を避ける箇所にて計画するため、形状・断面寸法が1基毎に異なる。構造寸法等によるグルーピングは行わず、静的解析が適用できないものについては、構造物詳細設計時に1基毎の地震時動的解析を実施することとした。**